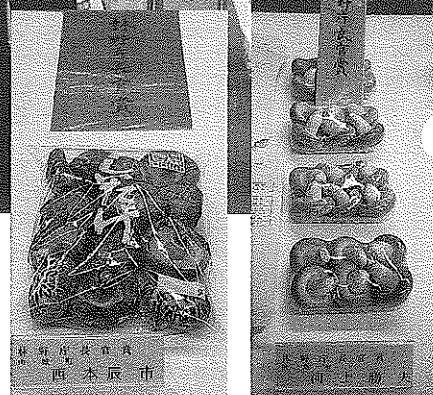


# 林業とくしま



平成11年1月30日  
 アスティとくしまで「徳島県しいたけフェア」  
 が開催され、県産しいたけをアピール!!



品評会で林野庁長官賞を受賞した出品財  
 乾しいたけの部 山城町 西本辰市さん  
 生しいたけの部 徳島市 河上藤夫さん



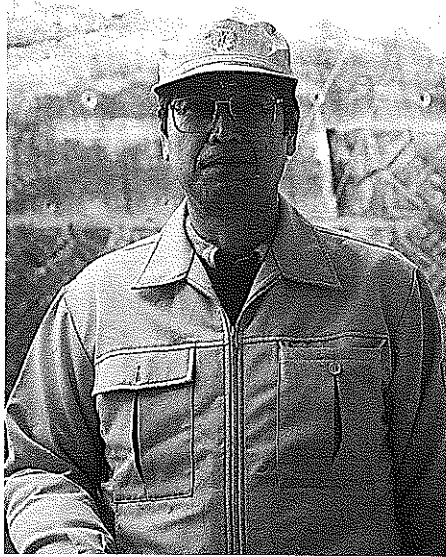
「青い空  
 緑の大地 ぼくのまち」

(平成11年徳島県緑化標語優秀作品)

箸倉小学校5年

西岡 宏樹君の作品

No. **248**  
 1999.3



## 持続的な森林経営を!!

三好地区林業指導者会

会長 真鍋 靖郎

林業は、植林から伐採まで数十年、場合によっては百年を超える長期間を要する産業であることから、確固たる管理経営方針の下で継続されることが望ましい。

短期間に目先の利益を追い求める経営を行えば、外部要因で林業の収益性が低下した場合などに森林施業が放棄されて森林の有する公益的機能の発揮に重大な支障をもたらし、国土保全上取り返しのつかない事態に立ち至るおそれもある。

ここで、私の山の経営管理の理念を簡単にまとめてみますと、

一、山は長期事業であること。

二、継続されなければならないこと。

三、資本力のあるものに駆逐されないようにである。

そんな厳しい中であって、生き残る方法を模索しながら、

施業を極力省力化し、それに見合う機械化を考えながら、同時に林内路網の整備と組合わせた林業体型を作ろうと今準備と実習をしているところです。

これら実習から行政との連携（指導と情報）、森林組合との協力がますます必要不可欠であることは言うまでもないことであり、各人各様の林業経営を考えなければなりません。

持続的な森林経営をしてゆくに、ゆつくりと、しかも着実に行う必要があります。

専業林家としてなりたない今、林業からの見方だけでなく、異業種の方々との交流を図り、教育、文化、スポーツ、福祉と幅広くかわることで、山もその一環としての役割を担っていると考えると、共創していくのもこれからの時代には必要であると思われまます。

持続あるのみ、「スローリー・アンド・ステッドリー」であります。

### もくじ (林業とくしま 248号)

やまびこ(継続的な森林経営を!!)	2
鉄人コーナー(牛の靴屋さん林業家)	3
(素材生産の索引名人)	
林政の窓(林業の担い手対策と事例紹介)	4
特集(山にはお宝がいっぱい)	6
森林とともに(山村の生活をロマンチックに楽しむ)	8
(素材生産に夢をもとめて)	9

技術情報(野生鳥獣による林業被害対策について)	10
阿波だぬき(地生えの根性)	12
東西南北	13
お知らせ	14
原木市況	18

## 牛の靴屋さん林業家

美郷村

後藤 博之氏

川島管内には「牛の靴屋さん」をしながら林研グループの活動も積極的になされている方がいます。

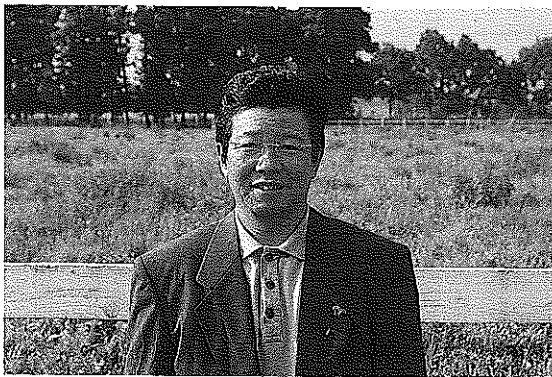
美郷村の古土地に在住の後藤田博之さんがその人です。

後藤田さんは、現在では極めて少なくなった「削蹄師」という肩書きをお持ちの方で、削蹄師と聞いてもピンと来ない方も多いと思いますが、牛の健康を守り、乳牛の搾乳量を保つ上で畜産業農家にとっては大変貴重なお仕事をされている方です。

徳島県は関西圏で有数の酪農県で乳牛頭数も多いのですが、県内に削蹄師の方は、後藤田さんお一人しかいないのが現状です。

牛や馬の蹄(ひづめ)は、自然界では運動中の摩耗と成長量とのバランスが保たれていますが、家畜化するごとに畜舎の生活で蹄が伸び過ぎ、脚の病気や体調を崩すことになりま

す。そこで、削蹄師が定期的に蹄を削



てやることで病気等になるのを防ぐことが出来るのです。

そのため、県内はもとより県外各地にも引つ張りだごで日々精力的に頑張っておられます。

そして生業の傍ら、所有山林の管理にも積極的に作業道の開設、間伐の実施と美郷村林研グループ「美郷林業同友クラブ」のメンバーとして地域林業の活性化にも貢献され、また集約林業研究会会員として天紋の研究にも参加されています。今後、地域の若手林家として益々期待される一人です。

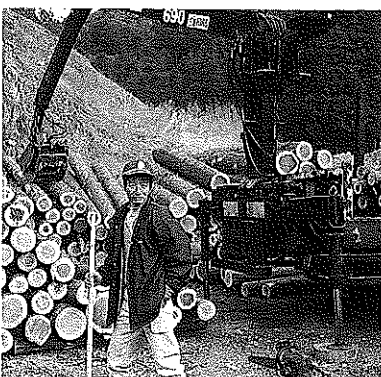
## 素材生産の

素張り名人

海南町

瀧村 博氏

海南町の素材生産業者の一人で、索道設置の名人である瀧村さんにお話を伺いました。瀧村さんは、昭和四十七年から兄のもとで素材生産の仕事を始めました。そして、十年前から独立し、五人の作業班で幅広く素材生産を行っています。素材生産で一番大事な事はと聞くと仕事をきらさないようにすることと段取りを良くすることだそうです。また、索張りをするときには、作業能率を良くするように引くことが必要だそうです。さらに、索道に対する木の伐倒方向も気をつけるそうです。ところで、瀧村さんは、単に索張りの名人だけでなく、グラップルを使った玉掛け作業でもさまざまな手を使うような名人芸をみせてくれます。グラップル以外にもプロセツサーを保有しており、作業能率の向上や労働安全対策にも十分気を使っています。さて最近では、林業低迷により木頭村や県外での請



負事業が多くなっており、素材生産業はしんどい仕事であると言います。地元での安定的な事業量の確保が必要だと痛感しました。林業後継者の養成については、若い人を一人だけ年配の作業班に入れると年とつた者が辞めてしまうと続けられなくなるので、これからは同じ年代の者を数名採用し一つの班で育てたらどうかとアドバイスを受けました。このように素材生産一筋で二十五年間がんばってきた瀧村さんですが、最近では炭の生産にも関心を持っています。このような趣味の世界も広げていただきたいと思えます。最後に、これからも地域林業の担い手の一人として活躍を期待しています。

# 林業の担い手対策と事例紹介

はじめに

林業の将来を語るときに必ず出てくる話題が担い手対策です。農山村の過疎と高齢化が進み、山の手入れをする人がいなくなったという話は、皆さんのまわりでもよく出ると思います。

平成七年の国勢調査でも県内の林業就業者は一、二五五人と昭和四〇年の四分の一に減少しており、五〇歳以上の高齢者の割合が七割に達しています。

このため、徳島の山を将来にわたって適切に守っていくためにも、担い手の確保は最も重要な課題の一つなのです。

ここでは、担い手確保のための施策と、県内の活発な取り組み事例について紹介します。

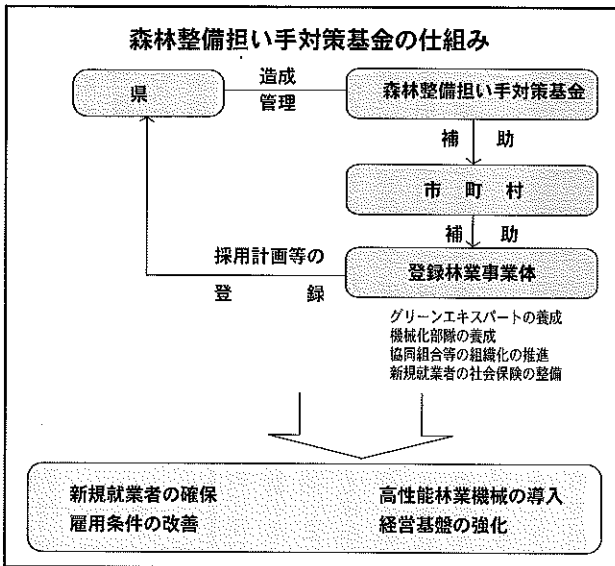
## 一 林業担い手対策の概要

### ●基金事業の内容と成果

県では、森林整備担い手対策基金

一六億円を積み立て、この運用益により担い手対策を推進しています。

平成七年度から、新人を雇った事業体とその新人の訓練経費や社会保険料の事業主負担などを



別表1 グリーンエキスパート養成事業の実績

年度	7	8	9	10	計
養成人数	13人	7人	12人	16人	48人
うちIターン	6人	2人	7人	7人	22人

助成しています。この結果、別表一のとおり平成七年度から一〇年度の間に計四八名が養成されています。

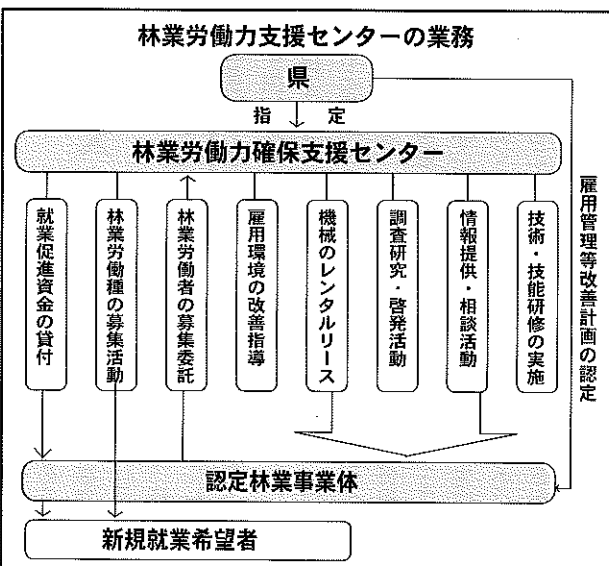
## ●林業労働力確保支援センター

平成九年七月に「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づく林業労働

働力確保支援センターが設置されました。

この支援センターは、林業に就業しようとする人への情報提供や求人・求職に関する相談等を行い、就業希望者と林業事業体等の橋渡しをしています。最近、Iターン希望者の相談が増えています。

支援センターは、徳島県森林組合連合会の中にありますので、森林組合や林業事業体の皆様も気軽に相談にお越しくください。(住所徳島市



かちどき橋一丁目四一番地 電話  
〇八八一六二一八一五八

## ●改善計画作成のすめ

県では、森林組合や林業事業体に対して「雇管理の改善と事業の合理化についての計画（改善計画）」を作成し、知事の認定を受けて計画的に雇用環境を改善することを推奨しています。

林業事業体が改善計画の認定を受ける、林業労働者の共同募集ができた、林業改善資金の貸付限度額の引き上げや、林業用機械・装置の割増償却など課税の特例が受けられるといったメリットがあります。

詳細については、最寄りの農林事務所にご相談ください。

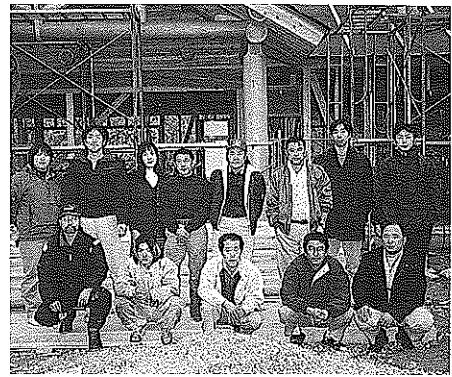
## 二 優良林業事業体の紹介

### ●山城もくもく設立の経緯

平成九年十二月に設立された山城もくもくは山城町を筆頭株主として第三セクターであり、十三人の従業員が間伐などの森林施業を行っています。

### ●従業員の状況

従業員の平均年齢は三六歳、Iターン二名、Uターン二名、林業の仕事をするのが初めてという人がほとんどです。



前の職歴もバラエティに富んでおり、大学の法学部を卒業して塾の講師をしていた人や喫茶店で働いていた人など、まったく林業と関係ない仕事に就いていた人もいます。Iターンの一人は彼女を呼び寄せて結婚し、山城町に定住したという話も聞いています。

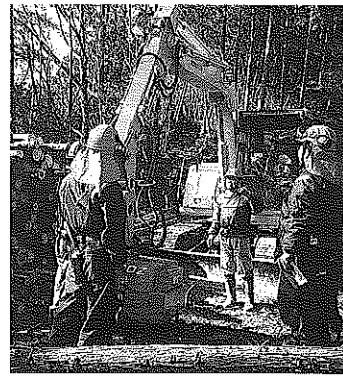
入社時には持っていないなかった各種資格も、今年度林業総合技術センターで取得しました。

四月から今まで退職者もまったくおらず、和気あいあいとした雰囲気です。

### ●仕事の段取りと安全対策

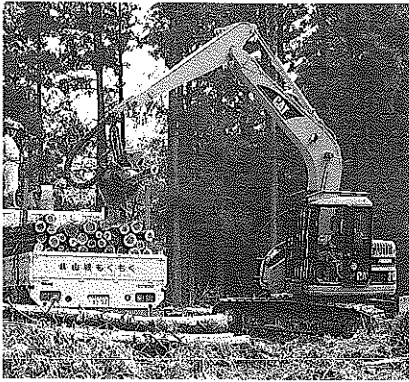
毎日、仕事開始前、終了後のミーティングや打合せなどで日々の仕事を

の段取りをしており、安全対策には気を配っています。また、毎週金曜日には来週分のミーティングをしており、



綿密な事業の打合せをしています。

実際の作業は、今は引退している地元の林業従事者を非常勤の指導員として、技術的な指導を受けながら行っています。



プロセッサやタワーヤードなどの導入も安全作業にも役立っています。

### ●今後の展望

この会社が活動を開始して一年が経とうとしています。

専務の大内さんは、「安全衛生の確保」「作業の能率アップ」、「個人・チームの能力アップ」を目指していきたいと話してくれました。

さらに、「事業の確保」のために、県や森林組合と協力しながら森林所有者への働きかけを進めていきたいと考えているそうです。

会社の設立目的である林業労働者の育成確保を推進し、山城町のみならず県下の模範となるような林業事業体として積極的な事業展開をしていくことを期待しています。

### おわりに

林業労働者を雇用し、担い手として育成するのは森林組合であり林業事業体です。皆さんの取り組みが担い手を増やし、林業を活性化する原動力です。

県や林業労働力確保支援センターは、担い手確保のための取り組みを応援します。

農山村振興課 団体指導係



# 山には、お宝がいっぱい!!

## 「山のお宝有効活用促進事業」の紹介

中山間地域には、地域に根付いた「お宝」や自然に恵まれた特産物等、未利用な「お宝」が数多く埋もれています。そして地域の人には見慣れたものでも、都会の人には新鮮な「山のお宝」が、数多くあります。

この事業は、地域外の人、異業種のアドバイザーなどと共に地域を調査し、「お宝」の発見、また選定されたお宝の商品化、PRまで取り組む活動を支援します。今回、平成十年度の事業実施事例を紹介させていただきます。

### 木沢村

## 地域の味をPR!!

木沢村には、特産のゆず、山菜、また健康野菜のモロヘイヤやスギナなど、美味なものが沢山あります。それは、木沢の「山のお宝」です。

その木沢の味を都市の人たちに届



けようと、山のお宝有効活用事業で加工品の新パッケージ作成に取り組みました。ゆずみそ、四季美漬け(山菜調味漬け)、イタドリのお醤油漬け、モロヘイヤ粉末などの商品の顔であるパッケージを一新しました。現在、作り手のお母さん達も新しい製品を張り切つて製造しています。新パッケージ商品は春頃から四季美谷温泉、農村レストラン「いづりは」等でお目見えます。是非ご試食ください。



こうした中、穴吹町を訪れる人々にも、もつと木町の特産品をもつと知ってもらおうと様々な商品化を進めています。具体的には、内田の林業グループ「内田木生会」を中心に、木工品や木炭、マンネンタケ、かずら細工等の商品化に取り組みました。そして特産品資源マップの作成、木炭利用者へのアンケート調査、観光客への販売活動、マンネンタケ及び

### 穴吹町

## 「内田木生会」

特産品の商品化

六吹町は清流穴吹川を観光資源として交流による地域作りを進めています。



木屋平村中尾山高原の湖畔茶屋(特産品販売施設)では地域でとれたしいたけや新鮮野菜を直売しています。この実働部隊となっているのが村内の女性林研グループ「やまぶき会」です。観光客が、多い七月と八月に販売を行い、この間、同施設を訪れた利用者の特産品の販売を行うほか、嗜好調査も行いました。他にも林業関係のイベントに出向き、木屋平の「山のお宝」のPRを繰り広げました。

### 木屋平村

## 「やまぶき会」

特産品PR

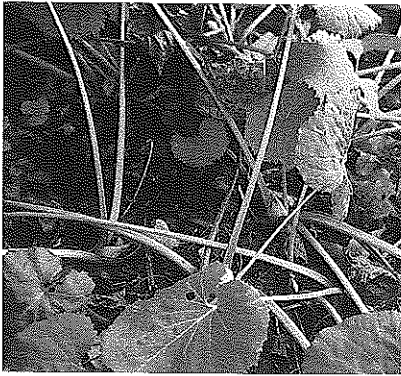
木工等の先進地調査を実施しています。

## 神山町

### 「山ぶき」

青梅、すだちの産地である神山町に、新しい特産品「魅力あるお宝」として、山の幸、山ぶきが加わります。神山の「山のお宝」として選定した山ぶきは地域資源であり、自然食品、健康ブームにそったもの。栽培労力も比較的少なく、高齢者や婦人も割合取り組めやすい作業内容である点。山菜料理や加工等も可能であるなど好条件がそろっています。

現在、休耕地の圃場を借りて優良品種の育苗を始めています。関係者は、活力あるふるさとづくりの一助となればと期待を寄せています。



## 山城町

### 「溪谷の旬」

山城町では、町内に自生している山菜類などの未利用資源を有効活用し、料理などに添えて季節感を演出する「つまもの商品」の開発を促進する取り組みが進められています。この山城の「山のお宝」は「溪谷の旬」と名付けられ約八十名の生産者を中心に販路拡大などの調査研究が行われています。この活動により、これまで身近にある野山にあまり関心を持たなかった人も、自然に対する考え方や見方が変わり、自然の魅力を再発見することに積極的になり活気づいてきました。



## 上勝町

### 縁起茶(花の枝)

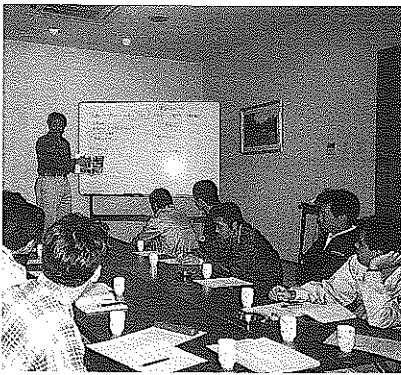
木の葉を小判に換えるという錬金術を持つている上勝町。奥深い山々に埋もれているお宝がいつばいあります。木の葉の関連商品はもちろんのこと、今回の事業では、特産品研究会を中心に神田茶の商品化に力を入れ、縁起茶(茶の枝)や花咲茶(茶の粉)といった今まで商品として評価の得られなかったものを世に出すことに成功し脚光を浴びています。神戸方面のスーパーでは、独自の特産品コーナーも設置して下さる程の人気となっております。



## 丹生谷若手林業研究会

### 木工クラフト製品

丹生谷若手林業研究会は、端材を使って、木工クラフト製品の商品化に取り組みました。昨年十月に行われた「山と木と緑のフェア」で試作品を販売して消費者ニーズを探りました。そして、木工クラフト製品商品化に向け、工業デザイナーを講師に、デザイン、加工技術について勉強会を行いました。講師から新しい木工クラフトデザインを宿題として出され、今年度中に試作品を作ることを目標として頑張っています。



農山村振興課 林産係

# 山村の生活を ロマンチックに楽しむ

— 宇村 大宗町子さん

暦の上では春が近いとはいえず、例年より遅めの本格的な冬が訪れた一宇村森林組合に大宗さんを訪ねてみました。

おじやました時は、歯が痛くて話しくいにも聞わず明るく応えてくれ、楽しいひとときを過ごすことができました。(写真で左頬を抑えているのはそのためです。念のため)。

大宗さんは一宇村生まれ(誕生日は十二月二十四日のXマスイヴといきなりロマンチック)、血液型A型の明るい方です。

若い頃(今でも)じゆうぶん若いですが……、仕事の関係で神戸にも住んだことがあるそうですが、ゆったりとした時間が流れる山村の生活が性に合うということで帰ってきて以来、地元一宇村での

生活を楽しんでいます。

森林組合に勤めだして六年め。現在の仕事は女性ということもあって経理が主ですが、バレエボール、スキー、山登りなど体を動かすことが大好き。木々の香りを感じながら現場の測量などとして



みたい、と頼もしいことも言ってくれました。

もともと一宇村の豊かな自然とおいしい空気が好きというアウトドア派で、季節ごとに姿を変えて行く自然のさまは魅力いっぱいだとか。森林所有者でもあり、休みの日には家族で下刈りに行くことも家族で楽しい林業を実践しています。畑にもリンゴ、梨といった実のなる木を植えているそうです。

また家の近くには、子供の頃から見つめてきたカシの巨木が三本あるそうで、木といろんな話をするのも楽しい日課になっています。星をみるのも好きで、息子さんと星をみながら話すこともしばしばとか(二段とロマンチックな感じ)。趣味も多彩で、調理師、家族一緒にとったアマチュア無線といった実用的な資格から、最近では社交ダンス、果ては川柳まで。村内の同年代の方々十人ほどで構成する「暇をもてあます会」にも参加し、時間さえあれば村内を飛びまわり、活動の場を広げていきます。

すでに子育てもあらかた終わった大宗さん(取材当日も友達のように娘さんと話す様子が印象的

でした)。持ち前の明るさとパワーで、過疎化がすすむ山村の生活を華やいだものに変えていくことでしよう。



現在の悩みは大好きなスキーに行けないこと。仕事が一段落したら滑りに行きたいとのことでした。(この誌面をにぎわす頃にはリフレッシュしていることと思います。ただ、きちんと歯医者にも行ったほうがいいですよ。)

最後に、最近詠んだ川柳を一句。

雨ふりて

落ち葉のあとに

真珠咲く

うーん、最後までロマンあふれる大宗さんでした。

協町農林事務所 安丸浩志



# 素材生産に 夢をもとめて

山城町 福島 朱美さん

今回紹介する頑張る女性は、山城町の第三セクターである「榊山城もくもく」に勤める福島朱美さんです。平成九年四月の会社設立と同時に入社し、現場では男性たちの中で、紅一点頑張っています。

●「榊山城もくもく」に入社したきっかけは

仕事を探している時に、ちょうど募集の話を耳にして、家族は山仕事に従事していないので、多少の不安はありましたが、やってみようかなと思っ

●仕事には慣れましたか。

仕事には慣れましたが、まだついていくのがやっとといったところです。周りの皆さんが優しく、いろいろと手伝ってくれますので、仕事自体は順調に進んでいます。これからもっと頑張っていきたいです。



●林業機械も使うのですか。

「榊山城もくもく」でもタワーヤードやプロセッサを所有しているので何度かは乗りました。初めは扱いにくそうに思えた機械も、操作は案外簡単なので、慣れたら私でも十分使えそうだと感じました。

なお、私自身、入社してからこれまでに、林業総合技術センターでの

車両系建設機械、小型移動式クレーン、チェーンソーの伐木等特別教育の研修は修了しております。今後も実践の中で技術を磨いていきたいと考えています。

また、余談ですが、先日の小型移動式クレーンの研修では、地元の三好高校の女生徒三名と一緒にになりました。高校で研修の案内があり、自ら参加したとのことでした。

●仕事で苦労したことはありませんか。

これまでに山道を歩くことが少なかったのが、慣れるまでは大変でした。しかし、ある程度慣れたとはいえ、車を止めて現地までの道のりは遠いものです。また、作業においても、実際従事する者にとっては負担が大きいものです。

今後は林道、作業道の整備や機械化によって作業が楽になれば良いと思います。

●今の仕事で良いところは

何よりも良いのは、自然の中で働けることです。また、仕事から危険と隣り合わせの緊張感がありますが、毎日が充実しています。

しかし、「素材生産」という仕事はあまり人々に知られていないので、

もっと自分の仕事を多くの人に知ってもらいたいと考えています。

●夢は

今、趣味でガーデニングをしております、季節に応じた花々を楽しんでいます。

将来は、様々な木々や、手作りのプラントで花々が楽しめる庭がある、ログハウスのような家に住んでみたいと思っています。



福島さんには、徳島県の素材生産を担う若手女性として、今後一層のご活躍を期待するとともに、若手女性が参入できるような提言等を頂き、条件整備を進めていくことにより、福島さんに続く若手女性の参入が望まれるところです。

池田農林事務所 瀬尾 豊

## 野生鳥獣による 林業被害対策に ついて

林業総合技術センター保護科  
主任研究員 森 一生

野生鳥獣と人間の利用区域が重複している現状においては、お互いにプレッシャーを受けながら、生産活動や生活をするのが要求されます。

特に、森林のように多くの野生鳥獣が広範囲に生息している環境で完全に被害をなくするのは非常に難しいことです。加害鳥獣がゼロになれば、被害はなくなるわけですが、現実問題として実行するのは不可能です。そして、その鳥獣は森林を形成する要素のひとつでもあるのです。森林から持続的に生産物を得ようとするなら、鳥獣のための森林環境をも維持しながら、生産活動に大きな打撃を与えないレベルまで被害を軽減させる防除対策を実施することが求められます。森林環境管理のような大

きな課題はさておき、林業関係における防除対策を図1に示しました。防除対策には森林施業によるもの、個体群管理によるもの、直接的防除によるものと考えられます。これらを同時進行させながら、被害状況の調査による防除効果測定や個体数のモニタリング調査を実施し、被害量を許容限界以下に、個体群は最適頭数に維持するという状況が理

想的です。こういった防除・管理体制を整備することは図式化すると簡単ですが、実行するためには、技術的にもコスト的にも様々な問題を解決してゆかなければなりません。現在は直接的防除対策を中心に検討していますが、あくまでも対症療法ですので、目標は、防除・管理体制をつくることにあります。ここでは、その問題解決に向けての検討課題につい

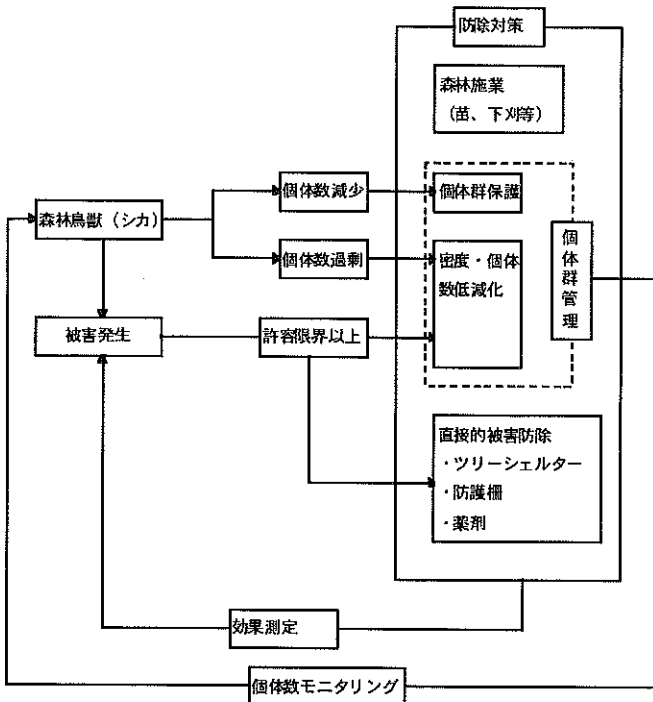


図1 防除・管理体制について

ての報告をしたいと思えます。  
一、生息密度と被害発生との関係とは……

被害状況と生息密度の平成十年度分、調査結果を図2に示しました。生息密度は生息頭数ではなく、野生動物保護管理事務所による糞塊数調査の結果を密度指数として使用しています。密度指数が十以上の高密度のところでは被害率も大きくなっているのが、大まかには被害の密度依存傾向がみられます。ただ密度が疎の区分であっても、被害率の高い場合というのにもみられるのです。すべての地域が密度に依存しているわけではないようです。

被害の軽減に密度管理は重要な施策ですが、それだけですべての状況に対応できるわけもなく、やはり個々の防除対策も必要になってくるということになります。

### 二、防除対策(直接的防除対策)について

●ツリーシェルター  
植栽木を筒状のもので囲ってしまいうツリーシェルターは、ヘキサチューブをはじめ、様々な材質を使ってトライされ始めています。この方法の利点は、植栽木がシェルターから出な

い限り、防除効果は万全であること、地形の影響がないので設置に自由度があること、植栽木のみを選択的に防除できることがあげられます。懸念されるのは、経費が高いこと、植栽木の健全な成長に対してのプレッシャーが心配されること……等です。経費に関しては、材質の値段が一〇〇円前後〜四〇〇円以上（一本当たり）と安い素材も利用されはじめ、かなり幅のある状況になっています。現在、主に利用されているもの種類、特徴は次のとおりです。

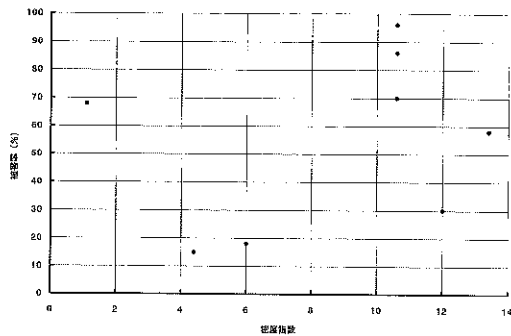


図2 被害状況と生息密度

## ①ヘキサチューブ

六角形のポリプロピレン製の筒状のもの。従来型のヘキサチューブは一年〜二年程度の耐久性で、実用性に欠けて適当とは言いかねる状況でしたが、現在の新型は紫外線劣化防止剤を入れて耐久性をアップしたタイプもあります。

## ②材質にネットを使用したもの

材質の費用を抑えるためと、なるべく自然状態に近くするためにネット状の材質を使用したタイプが出てきました。使用している材質には、主に次のようなタイプがあります。

- ・カネボウ製のラクトロンをネット状（1mm目）にしたもの。

ラクトロンはとうもろこしを原料にした繊維で、現地に放置したとしても環境に与える影響が少ないというものである。1m強の長さに切ったネットの両端に支柱を入れて設置します。

## ・防風ネットを使用したもの。

農業用の防風ネット（4mm目）をカネボウネットと同様の形に縫製して使用します。やや、苗木の芽がひっかかりやすいようです。

・トリカルネットを使用したもの  
のり面工事に使われるプラスチック

クネットを丸めて使用。20mm角の目のものを使用したので植栽木先端の芽がひっかかりやすいようです。

ツリーシールドターによる防除方法はまだ始まったばかりで、試験的に導入している場合が多いのですが、防除対策のメニューとしての実用性をアップさせるために試験結果等をフィードバックさせてゆく予定です。

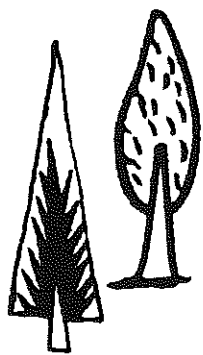
## ●防護柵について

防護柵は、適正に設置されれば植栽木へのプレッシャーを考慮する必要がないのではより有効な手段といえます。材質等で問題になっているのは風にたいする耐久性です。今年度秋の台風で支柱の破損したものがかなり見られました。強固な支柱を使えば解決する問題ですが費用、作業能率の点で問題が残ります。現在は、柵に使うネットに耐久性のある軽量化なタイプを使うこと、また柵の形状自体を風に強いタイプ（風のあたる面積を少なくするか、風圧を柔軟に逃がす……等）にすることで風への耐久性をアップしてゆこうとしています。

ただ、気をつけなければならぬのは、防護柵は面的な閉鎖空間を多量に作り出す方法なので、設置のし

かたによっては森林環境へのインパクトはかなり大きなものになるということです。柵自体の完成度を高めることも重要ですが、設置方法を検討することも取り組んでゆくべき課題と言えます。

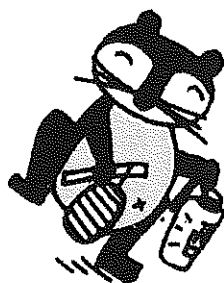
ここで紹介した防除方法以外にも、薬剤を利用するもの、電気柵を利用するものがありますし、下刈等の施業方法や苗木自身の耐獣害性を検討することも考えられます。しかし、これでOKというようなオパールマイティな防除方法の開発を目標とするよりは、いま検討中のものも含めて、被害状況等の様々な要素の中で最適な防除方法を選択することのほうがより現実的であると言えます。求められるのは、選択できるメニューの充実と現地に適応させるための指導・実施であると考えています。



# 地生えの根性

とくしまフォレストレディの会

会長 西森 利子



働くだけでなく何か趣味も生かせれば、もっと楽しくなるだろうと、昭和四十九年に詩吟を知人から勧められ、私自身も歌が好き、その上若さという最大の武器を携えて詩吟の世界に踏み入れました。

吟道はうたうとは言わず吟じるといふ事から習い、吟道の精神・呼吸法・発声法等々、一年間は基本的な漢詩の習得で明け暮れました。没頭タイプの私は週一回の練習では物足りず、山仕事に出かける時も教本はいつもナタ・ノコとセットで持ち歩き、休憩やお昼には山の天辺で大きな声で吟じると晴々とした気持ちになりました。こんな毎日が続いているうちに、近所の人が今日も西森さん「やってるわ」と、ちよつとした山の風物詩となり、やがて噂は

広がり誰からも詩吟好きな人と呼ばれました。教本は山で汗土に、家では炊事・風呂場までも肌身離さず持ち続け最早生活の一部になりました。

例えば、「九月十日 木村岳風」作「川中島 頼山陽」作といった名文を先生から教わり、来る日も来る日も私なりに声を出し次第と自信もついて楽しさが膨らみ、大会がある前には早朝より我が家の裏山で友人と先程の調子で発声練習をしました。先輩方と同じように、練習をしていても吟の経験の差なのか吟声・めりはり・吟道の奥深さに改めて気付かされました。が、しかし私なりに少々個性もあつて人と違ったところがあつても、これも愛嬌と思ふようになりました。

ただ、きれいな声だけではないし、詩文の中でも学びとることが次々とあつて……。また、みんなで話をする中で心のゆとりも出て、くよくよすることもなくなりました。

言葉では充分表せないけれど、今も重荷を背負い奮闘しています。人は好きな趣味を継続することも、断念することも気の持ちようです。皆さん、これからも趣味は続けましょうね。

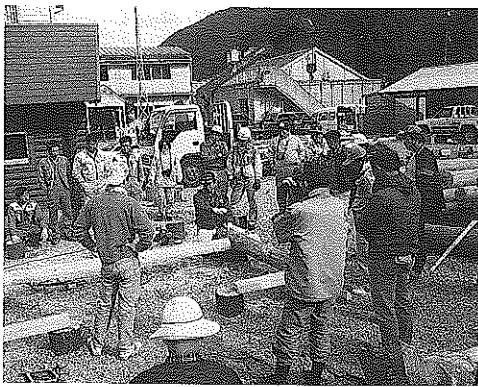




## 徳島

### 間伐材の利用促進に向けた ログハウス講習会

去る十月十七日上勝町の旭で、まだまだ低調な間伐材の利用促進を図ることを目的に林務課と徳島地区林業振興連絡協議会との共催により、「ログハウス加工技術講習会」が開催されました。講習会には町内外から三十名余りの参加者がありました。林業総合技術センターの兼松係長からチェンソーやログソール(簡易製材機)の取り扱いを学んだ後、ログハウスや椅子・テーブル等の木製品の製作販売で実績のある丹生谷地域若手林業研究会の会員六人の方々の指導を受けながら、間伐材の選別・剥皮からスクライバーの使い方やチェンソーワークに至るまでログハウス



徳島農林事務所 松村俊憲

についての一通りの基本技術を学びました。参加者は慣れないスクライバーやチェンソーワークに苦勞していたようですが、何より熱心で遅くまでチェンソーの音が響いていました。今回の講習会では、間伐材の利用促進に向けた普及啓発は言うまでもなく講師として来ていただいた丹生谷地域若手林業研究会の方々との交流も自然と行われ有意義な行事となりました。製作したログハウスや椅子は、上勝町旭にある徳島バス停留所待合室として活用されることとなっています。

## 南 第二十三回 阿那賀川地域育林祭開催

去る一月十二日、相生町健康センターで、那賀川林業振興会と那賀・海部川流域林業活性化センターの主催による第二十三回那賀川地域育林祭が、林業関係者等約二百名が参集して盛大に開催されました。まず式典においては、従来行っていた林業功労者等の表彰から少し趣を変えて、地域林業のシンボルとなる「スギ、ケヤキの巨樹・巨木コンクール」と県産材の良さを活かした「ちよつと木になる建物のコンクール」の表彰を行いました。スギの部の一位は上那賀町(幹廻五メートル)、ケヤキは阿南市(四・三メートル)に決まりました。

次に、高橋功前林野庁長官をお迎えして「明日の林業の行方」と題した林業講演会を開催しました。講演終了後は、厳しい林業環境を反映して、会場からは講師に対して、林業労働問題などの質問・要望等が活発に行われ、成功裏に終了しました。

阿南農林事務所 阿部克己



## 川島

### 多目的ウインチを使った 間伐材の搬出講習会

昨年十二月十七日に、美郷村内で集約林業研究会を対象に簡易なウインチ(商品名：ひつぱりだこ)を使用してエンドレスドラムによる単線循環式集材の方法とワイヤスプラインスの様々な差し方の講習を行いました。

当日は、兼松専技を講師にして十四名の参加がありました。架設に際しては、それぞれが滑車を運び実際に設置をして間伐材を搬出しました。

一台の機械で研修を行ったので、木寄せと木の架線乗せに効率が少





し落ちま  
したが最  
近この機  
械を買っ  
た人も多  
く参加者  
の意欲も  
旺盛で、こ  
のような

使用方とワイヤの差し方がある事  
が分かり大変参考となりました。

川島農林事務所 濱田 浩二

## 日和佐

### 四月一日に新生合併組合 「海部森林組合」誕生

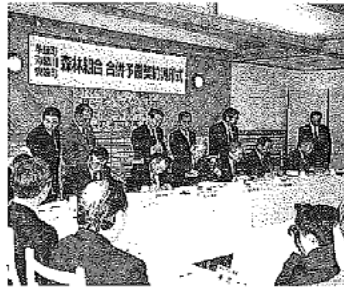
海部郡五森林組合の内、牟岐町森  
林組合・海部川森林組合・宍喰町  
森林組合の三森林組合の合併が、  
一月二十四日に同時開催された合  
併総会において承認され、四月一  
日に設立されることになりました。  
合併組合は、県内の森林組合と  
しては、経営森林面積及び出資金  
額で二番目の規模の森林組合とな  
ります。

この合併により、広域化による  
林産事業の事業量確保、林業従事  
者の雇用確保などが挙げられ、今

まで以上の森林整備が見込まれま  
す。

今後は、合併に向けての事業計  
画や体制など様々な課題を解決す  
る必要がありますが、新たな森林  
管理の担い手として果たす役割は  
重要であり、合併のメリットを生  
かした組合事業の展開に期待して  
います。

日和佐農林事務所 西條浩三



## 編集後記

平成十一年度が始まり  
ます。今年度は、会員皆  
様方の意見や思いを数  
多く掲載していきたいと  
思っています。  
多くの原稿をよろし  
くお願いいたします。

編集担当 R・S